

2022年度決算(案) 説明資料

相互会社としての使命	P1	新型コロナウイルス感染拡大に係る給付金等の状況	P9
経営の差別化の歴史	P2	基礎利益、経常利益・当期純剰余の状況	P10
100周年に向けて	P3	有価証券・不動産の含み益、実質純資産額の状況	P11
2022年度決算(案)のポイント	P4	健全性の状況	P12
保険業績の状況(2社合算)	P5 ~ P6	オンバランスの自己資本強化と統合的リスク管理の推進	P13
保険料等収入、金融機関窓販の状況	P7	2022年度決算の社員配当金案	P14
資産運用の状況(富国生命単体)	P8	【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)	P15

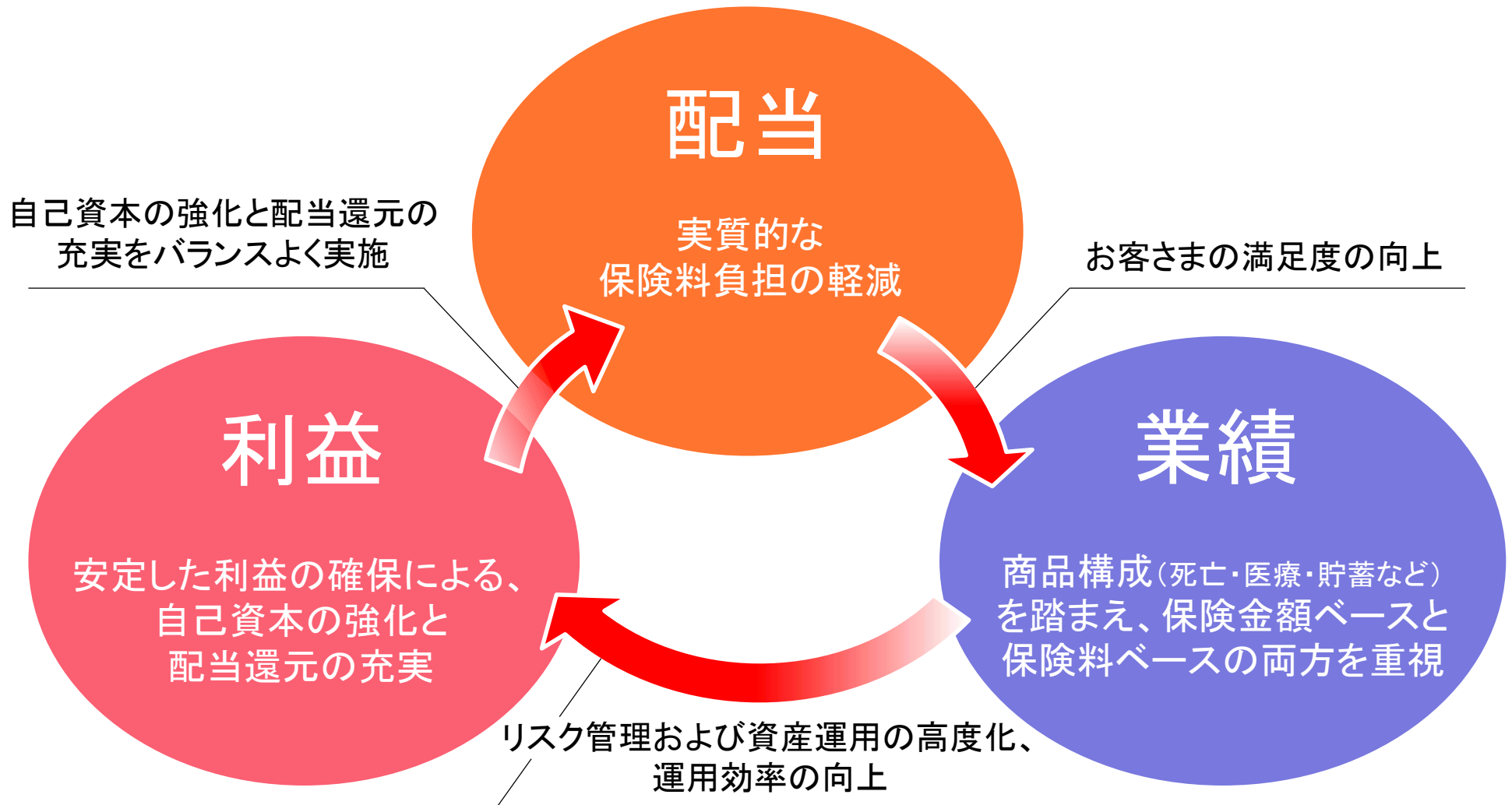
富国生命保険相互会社

2023年5月24日

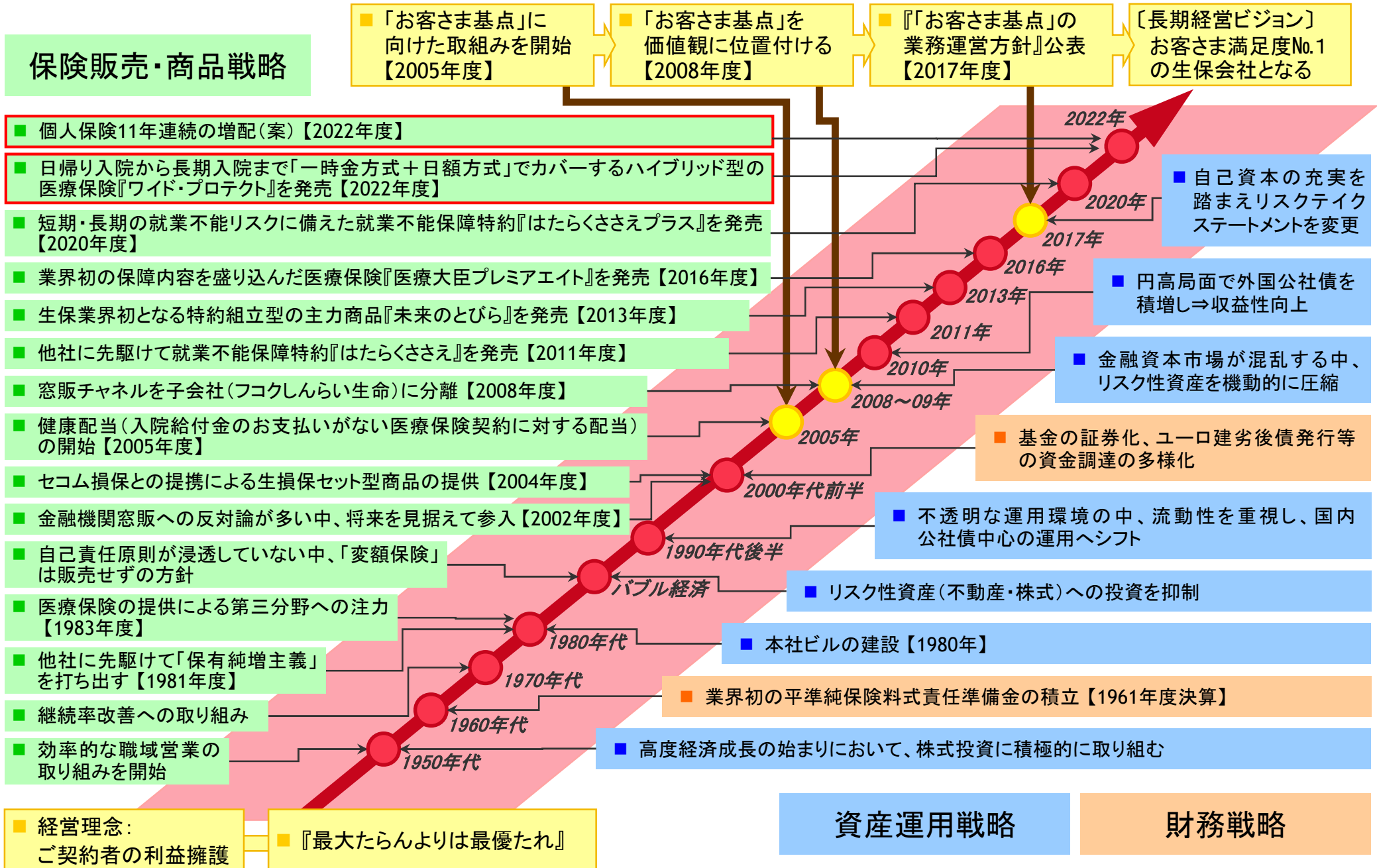


相互会社としての使命

安定した利益を確保し、配当還元の充実を通じてご契約者の実質的な保険料負担の軽減を図ることが相互会社としての使命であり、保険会社としていかなる時にも保険金等を確実にお支払いすることが最も重要な責務であると考え、実践している



経営の差別化の歴史



100周年に向けて

特別支援学校生徒の
美術作品



おやさいクレヨン



詳細は100周年サイトを
ご覧ください

THE MUTUAL

次代の“相互扶助”を考える

「THE MUTUAL」(ザ・ミューチュアル)とは
共感・つながり・支えあいをベースとした
次の100年に向け進化する次代の“相互扶助”のこと
そして、富国生命に関わるすべての人のつながりを深め支えあう
真の“相互扶助”を体現する組織を目指す決意



「THE MUTUAL Art for children」の取組み

- 「すまいる・ぎやらりー」(全国の特別支援学校生徒の美術作品を内幸町本社ビル地下2階に展示する企画)の作品をデザインとして活用し、子どもたちと社会がつながるお手伝い
- おやさいクレヨンを製作し、保育園等に寄贈(全62支社、約77,000個)

100周年

- 「THE MUTUAL」の体現
- 富国生命に関わるすべての人と共感しあえる会社となる
- 12月2日に「THE MUTUAL DAY」を開催
フコク生命が考える次代の“相互扶助”を発信

1923年
創業

創業

- 『保険事業の進むべき方向は、「ご契約者本位」しかない』という想いのもと相互会社として創業
- 創業以来、相互会社形態を貫く唯一の会社

2018年
95周年

100周年プロジェクトスタート

- 富国生命が考えていることや想いを、100周年プロジェクトのスタートアップとして宣言
- 100周年までの5年間で、次代の相互扶助を模索しながら発信していく

2019年
～2022年

2023年
100周年

「FIND THE MUTUAL」の取組み

- 地域に根ざしたつながりや支えあいなど身近な「THE MUTUAL」を取材し発信
- 富国生命の姿勢や考え方を伝えていく活動(27支社で実施)

2022年度決算(案)のポイント

1 新契約年換算保険料の大幅増加により保有契約年換算保険料も増加

- ◆ 富国生命、フコクしんらい生命合算の新契約高は前年度比6.4%減少、新契約年換算保険料は同28.6%増加、新契約年換算保険料はコロナ禍前(2019年度)の水準を上回り、2年連続で大幅に増加
- ◆ 富国生命の新医療保険「ワイド・プロテクト」の発売、フコクしんらい生命の利率更改型一時払終身保険の販売が好調
- ◆ 2社合算の解約失効は、コロナ禍前よりも良好な水準を継続
- ◆ 2社合算の保有契約年換算保険料は前年度末比0.2%増加と2016年度末以来6年ぶりに反転増加、うち第三分野は同0.9%増加と開示以来19年連続で増加

2 保険料等収入は増加

- ◆ 保険料等収入は2社ともに増加し、合算では前年度比20.3%増加

3 新型コロナウイルス感染拡大(第7波)の影響により減益

- ◆ 2社合算の基礎利益は、新型コロナウイルス感染拡大による給付金等の大幅な増加により、前年度比34.8%減少

4 引き続き高い健全性を維持

- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は1,171.9%と前年度末比102.4ポイント低下したものの、引き続き高い水準を維持

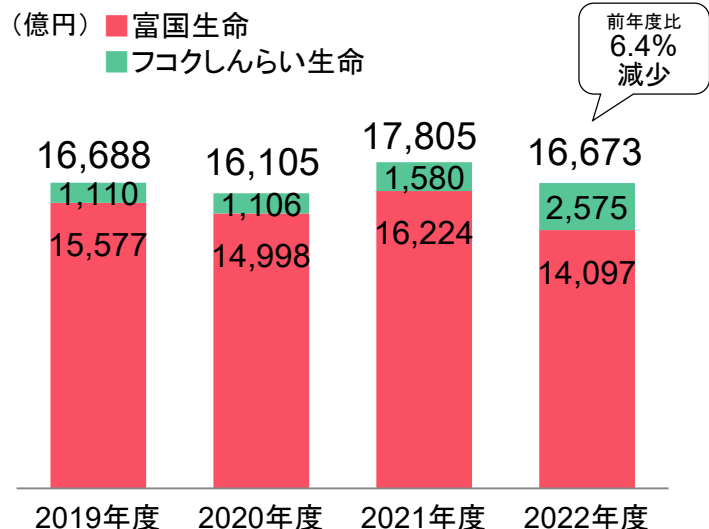
5 個人保険は11年連続増配、団体年金は前年度の業界最高水準の配当率を据え置き

- ◆ 個人保険分野のうち2017年度から2022年度に販売した学資保険について利差配当を増配、これにより11年連続増配となる。また、2022年度に発売した「未来のとびら」と「ワイド・プロテクト」については加入1年後からの配当を開始
- ◆ 企業保険分野のうち団体年金については、同保険の資産運用損益と有価証券含み益に基づき配当率を据え置き

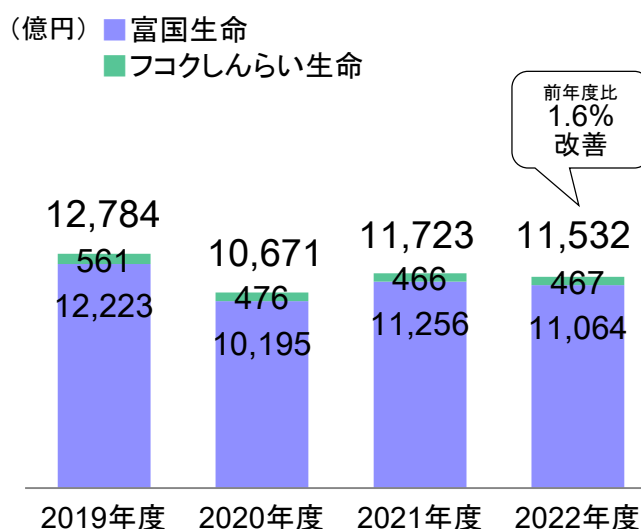
保険業績の状況(2社合算) 新契約・解約失効

※個人保険と個人年金保険の合計

新契約高

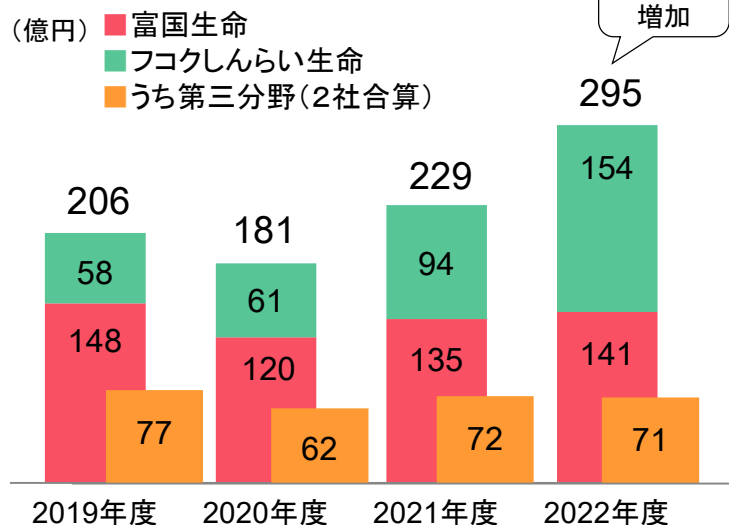


解約失効高

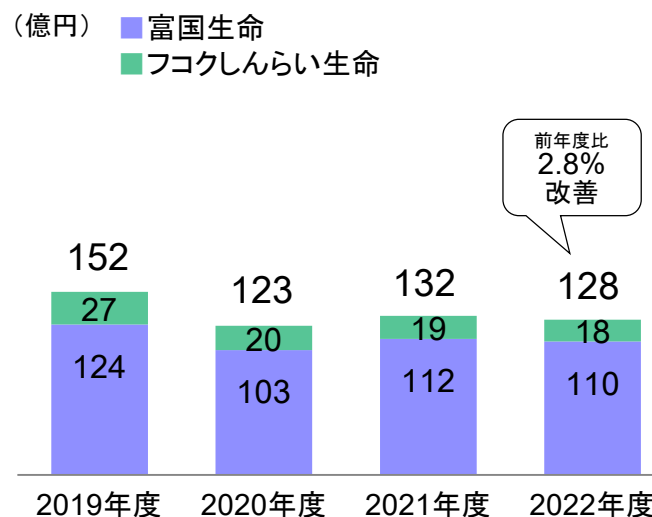


- ◆ 新契約高は、前年度比6.4%減少
- ◆ 新医療保険の発売やコロナ禍における医療保障への選好の高まりにより、販売実績が医療保険にシフトしたことが主な要因
- ◆ 解約失効高は、同1.6%改善、コロナ禍前よりも良好な水準を継続

新契約年換算保険料



解約失効年換算保険料



- ◆ 新契約年換算保険料は、前年度比28.6%増加
- ◆ 新医療保険の発売やフコクしんらい生命の利率更改型一時払終身保険の販売増加が主な要因
- ◆ 解約失効年換算保険料は、同2.8%改善、コロナ禍前よりも良好な水準を継続

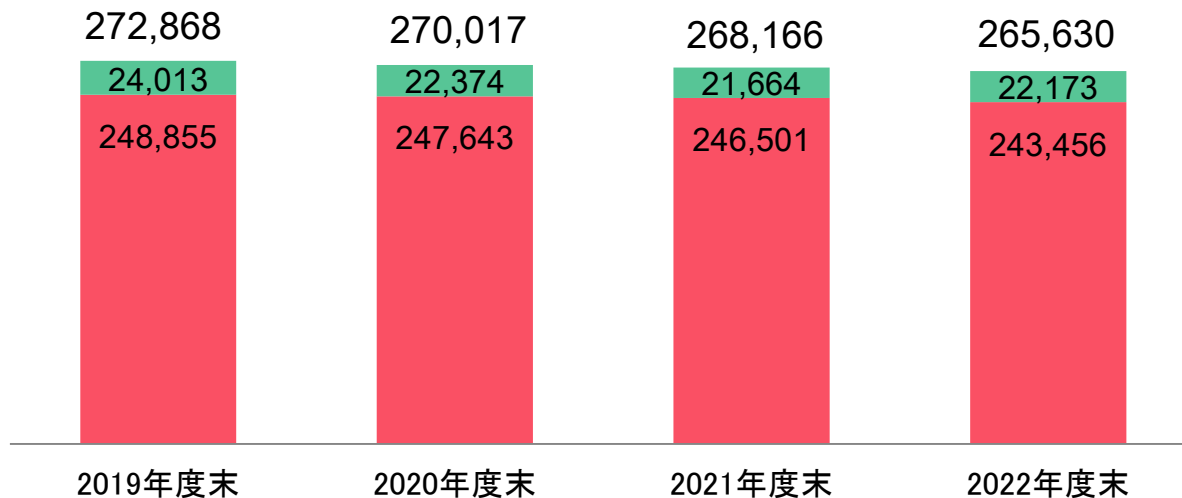
保険業績の状況(2社合算) 保有契約

※個人保険と個人年金保険の合計

保有契約高

(億円)

■富国生命 ■フコクしんらい生命

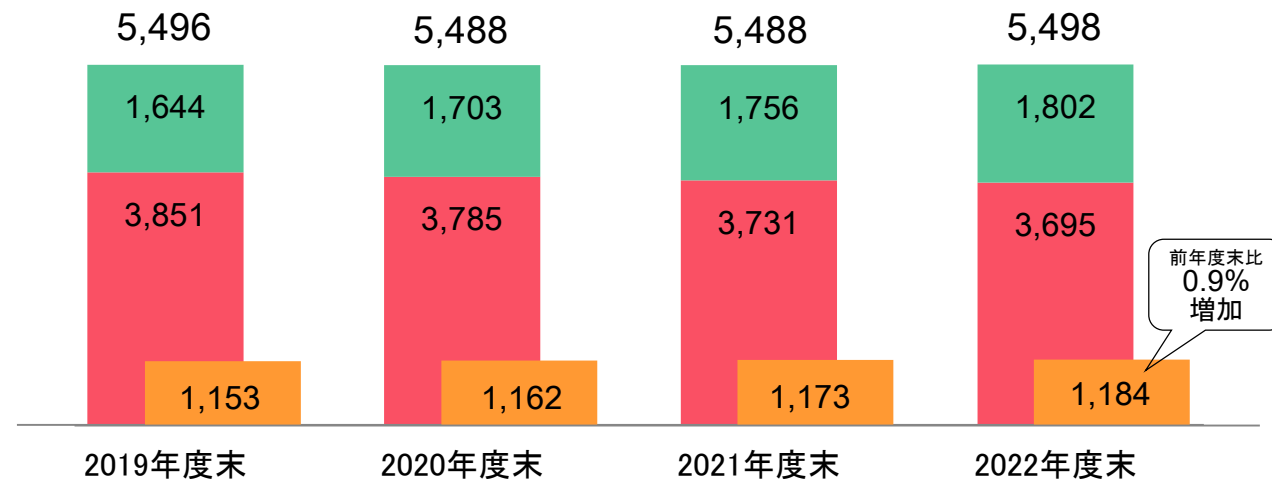


- ◆ 保有契約高は、前年度末比0.9%減少
- ◆ フコクしんらい生命は、2016年度末以来6年ぶりに反転増加

保有契約年換算保険料

(億円)

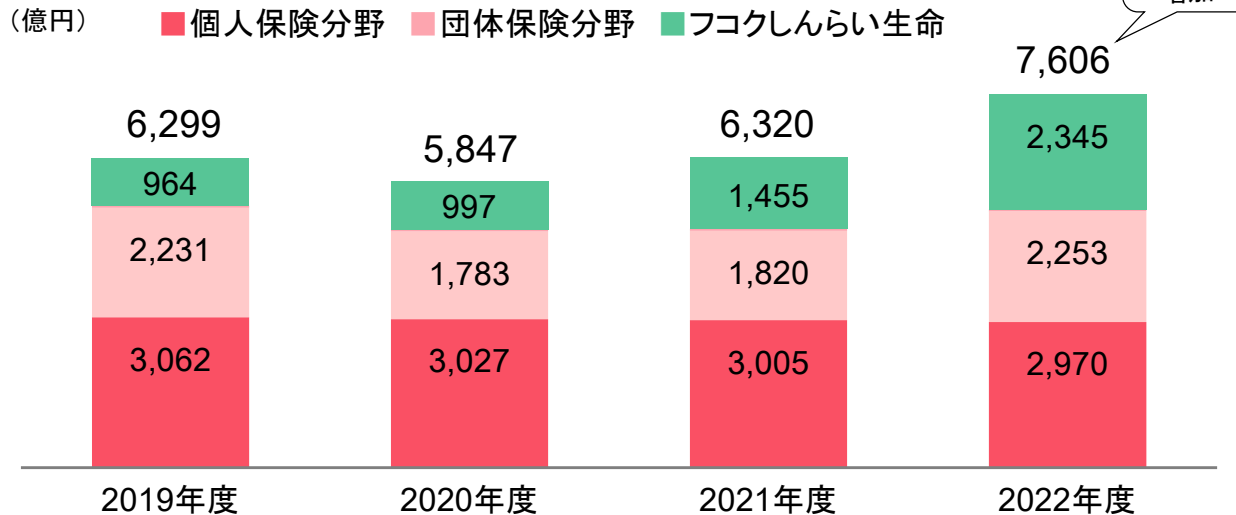
■富国生命 ■フコクしんらい生命
■うち第三分野(2社合算)



- ◆ 保有契約年換算保険料は前年度末比0.2%増加、2016年度末以来6年ぶりに反転増加
- ◆ 第三分野の保有契約年換算保険料は、同0.9%増加、開示以来19年連続で増加

保険料等収入、金融機関窓販の状況

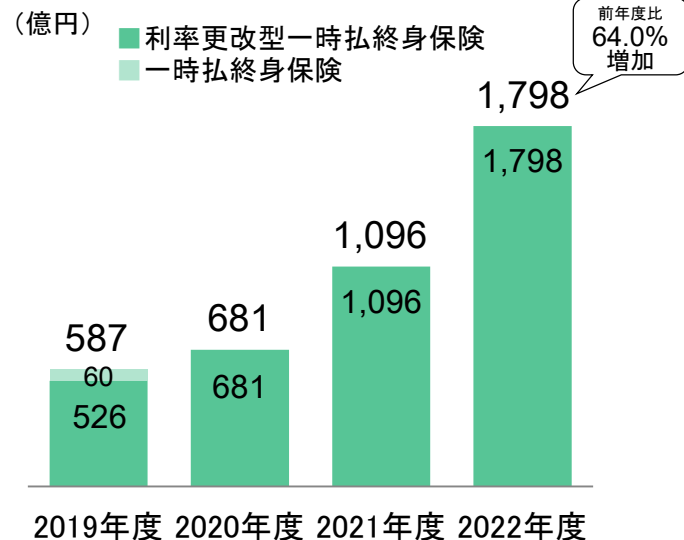
保険料等収入(富国生命、フコクしんらい生命合算)



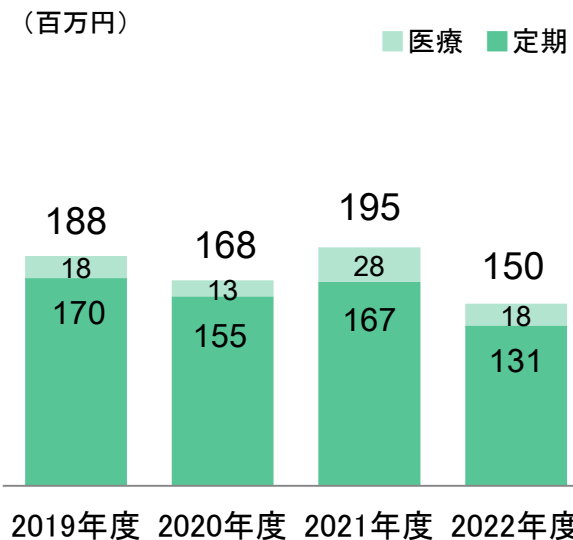
- ◆ 保険料等収入は、前年度比20.3%増加
- ◆ 団体年金およびフコクしんらい生命の利率更改型一時払終身保険の増加が主な要因

金融機関による保険販売実績(フコクしんらい生命)

【貯蓄性一時払商品の販売実績(収入保険料)】



【保障性商品の販売実績(年換算保険料)】



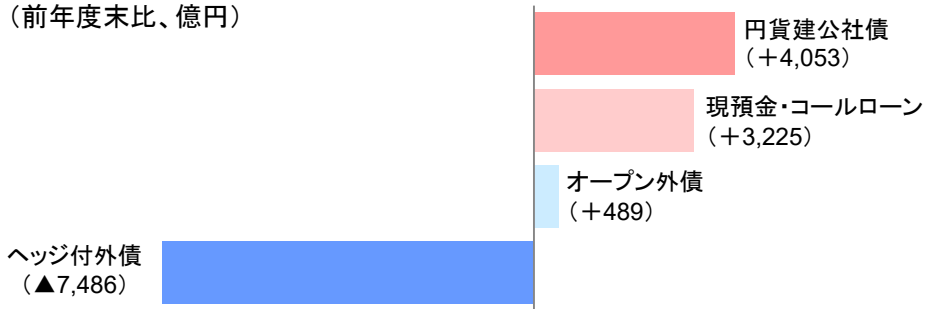
- ◆ 貯蓄性一時払商品の販売実績は、利率更改型一時払終身保険の販売が好調に推移し、前年度比64.0%増加

資産運用の状況(富国生命単体)

- ◆ 世界的な高インフレに伴う主要中央銀行の積極的な金融引き締めなどを背景に、金融資本市場の先行き不透明感が強かったことから、円貨建公社債を中心に資金を配分し、流動性の確保を第一とした資産運用を実践
- ◆ 海外の政策金利引き上げに伴う為替ヘッジコストの上昇により、ヘッジ付外債は収益性が低下したため、売却及びオープン外債化による大規模な削減を実施
- ◆ 日本銀行が長期金利の許容変動幅を拡大した年末以降は、さらなる金利上昇に備え超長期国債への投資を抑制したほか、円高リスクの高まりからオープン外債を削減
- ◆ 基礎利益上の運用収支は、利息及び配当金等収入が国内株式の増配や円安効果などにより増加したものの、為替ヘッジコストが増加したことなどから、前年対比で減少

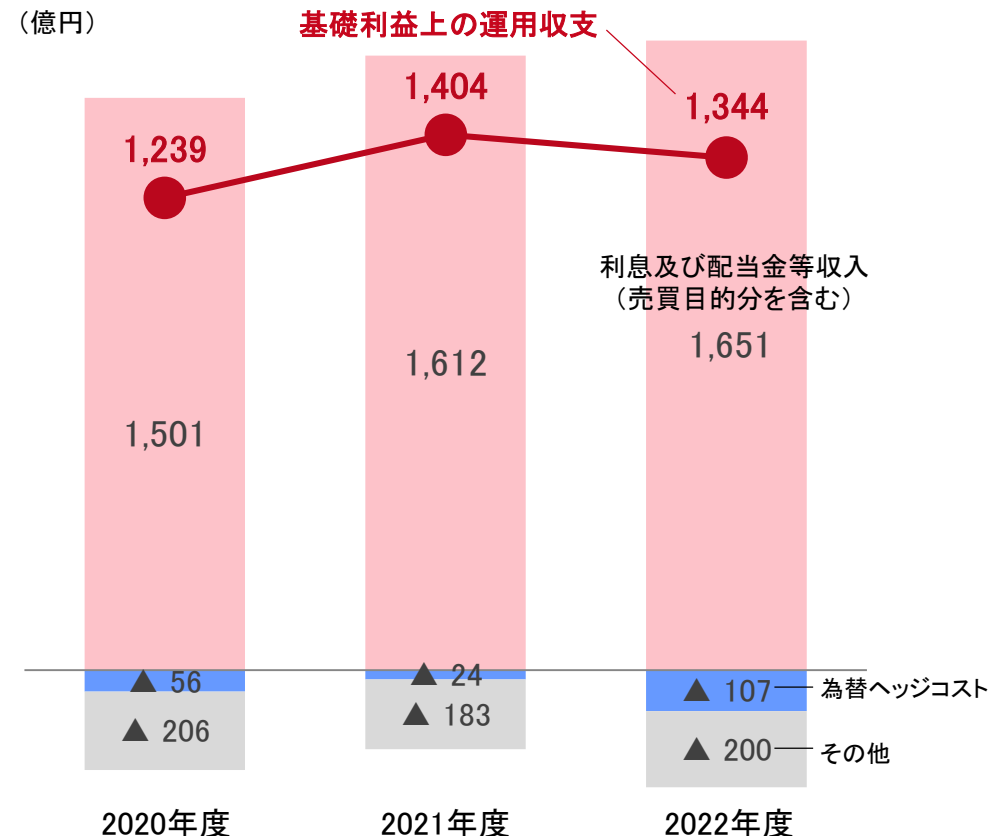
主な運用資産の帳簿価額残高の増減額

(前年度末比、億円)

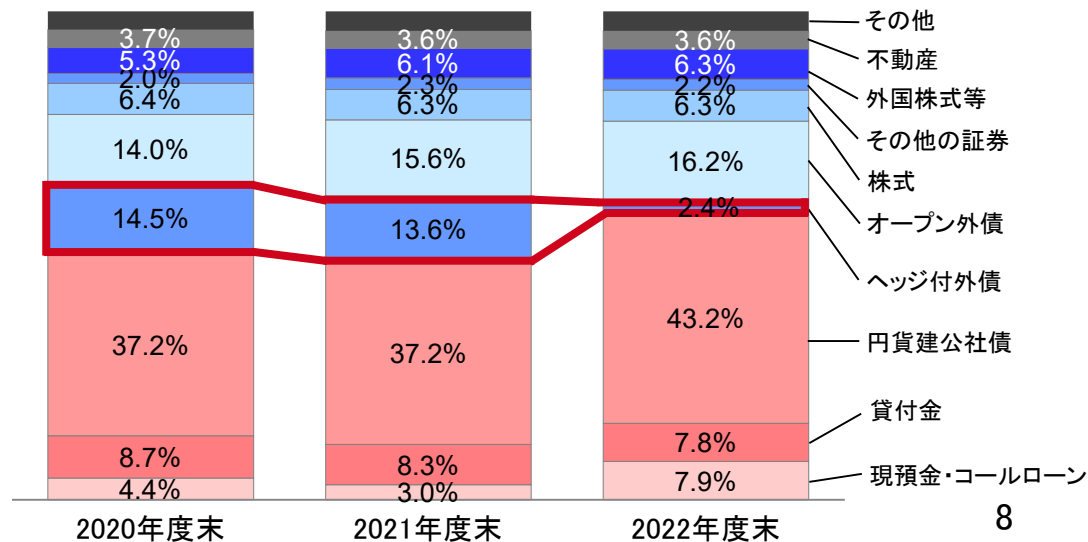


基礎利益上の運用収支の状況

(億円)



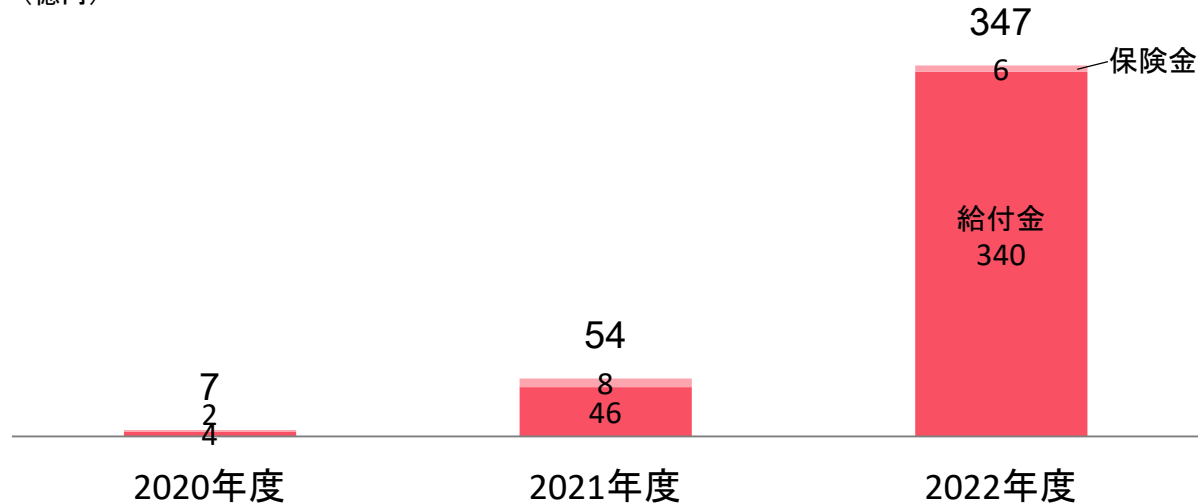
一般勘定資産の資産構成比(帳簿価額ベース)



新型コロナウイルス感染拡大に係る給付金等の状況

新型コロナに係る給付金等の支払額(富国生命単体)

(億円)

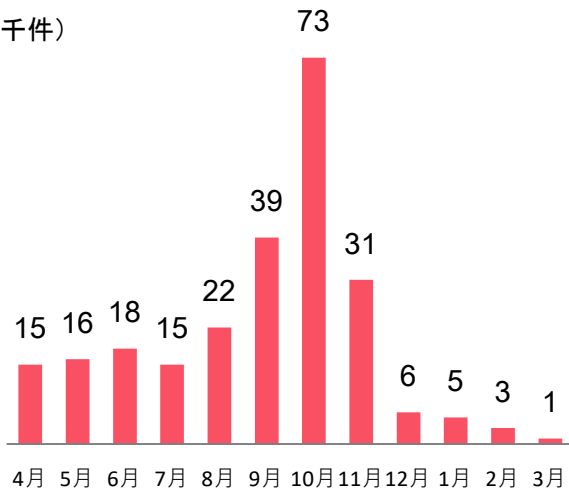


◆ 新型コロナに係る給付金等の支払額は347億円と、前年度と比べ大幅に増加

2022年度の新型コロナに係る給付金等の月別件数・支払額(富国生命単体)

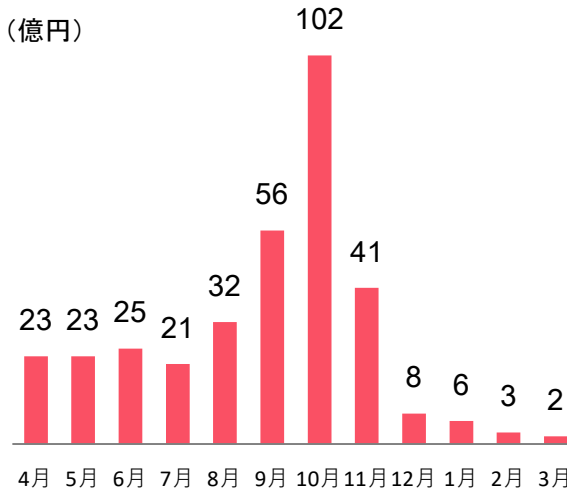
【件数】

(千件)



【支払額】

(億円)



◆ 新型コロナに係る給付金等は、第7波の影響により、8月～11月のお支払いが全体の約7割を占める

◆ 2022年9月26日以降、「みなし入院」による入院給付金等のお支払い※の対象を重症化リスクの高い方のみに変更したことにより、その後のお支払いは減少

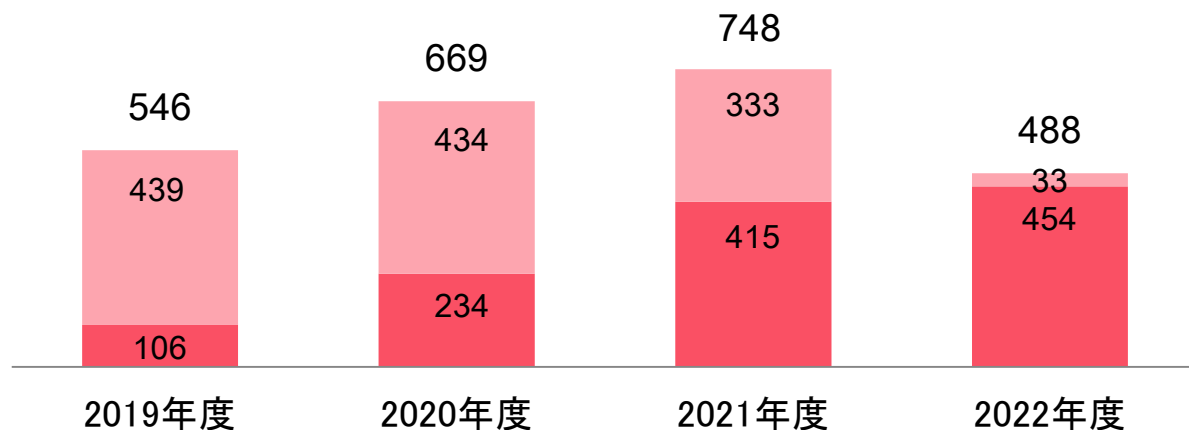
※ 5類移行に伴い、「みなし入院」による特例支払いを終了

基礎利益、経常利益・当期純剰余の状況

基礎利益(富国生命、フコクしんらい生命合算)

(億円)

■ 利差 ■ 保険関係損益



※ 2019年度、2020年度および2021年度の利差は、2022年度と同一の基準で調整

- ◆ 基礎利益は、前年度比34.8%減少
- ◆ 新型コロナに係る給付金等の大幅な支払増加による保険関係損益の減少が主な要因

経常利益・当期純剰余(富国生命単体)

(億円)

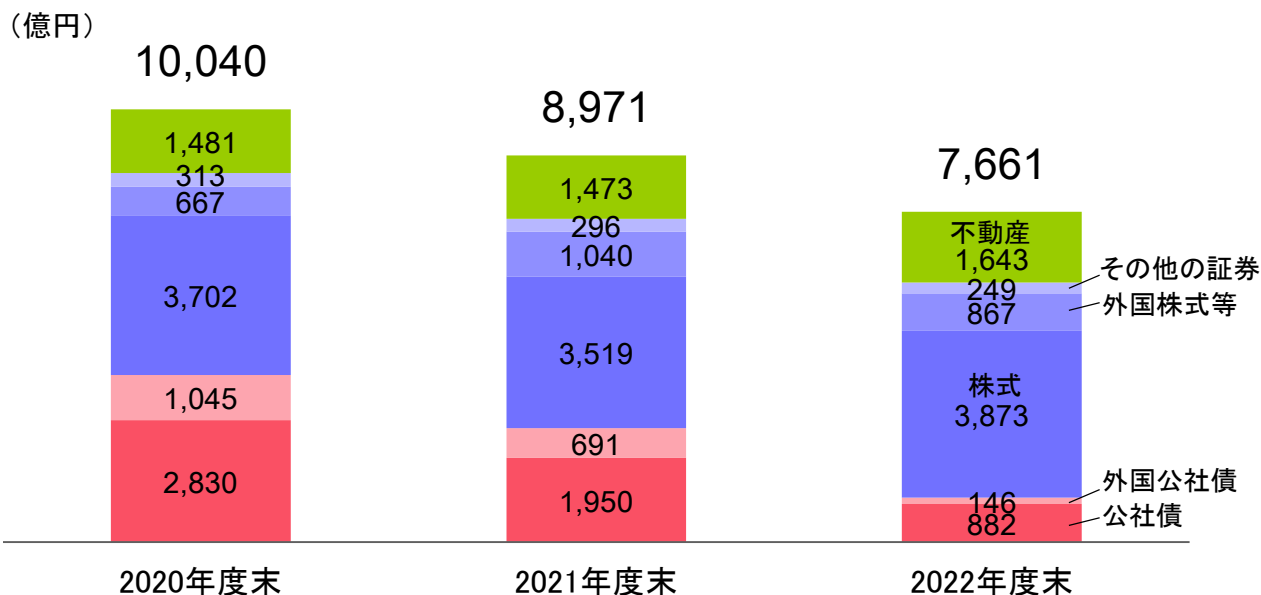
	2020年度	2021年度	2022年度
基礎利益	684	763	472
キャピタル損益	159	34	68
臨時損益	37	△ 410	△ 216
うち追加責任準備金と危険準備金への繰入額	△ 57	384	252
追加責任準備金繰入額	△ 205	1,128	127
危険準備金繰入額	148	△ 744	124
経常利益	881	387	325
特別損益	△ 519	△ 43	△ 3
価格変動準備金繰入額	500	38	5
当期純剰余	354	333	308

※ 2020年度および2021年度の基礎利益とキャピタル損益は、2022年度と同一の基準で調整

- ◆ 臨時損益は、前年度の△410億円から△216億円に縮小。これは、追加責任準備金と危険準備金への繰入額が、前年度の384億円から252億円に減少したことによる
- ◆ その結果、経常利益は、前年度比16.1%減少の325億円
- ◆ 価格変動準備金繰入額は5億円。これにより積立限度に到達
- ◆ 当期純剰余は、同7.3%減少の308億円

有価証券・不動産の含み益、実質純資産額の状況

有価証券・不動産の含み益(富国生命単体)



- ◆ 有価証券・不動産の含み益は、前年度末比14.6%減少の7,661億円
- ◆ 金利の上昇により内外の債券の含み益は減少したものの、株価や地価の上昇により株式や不動産の含み益は増加

実質純資産額(富国生命単体)

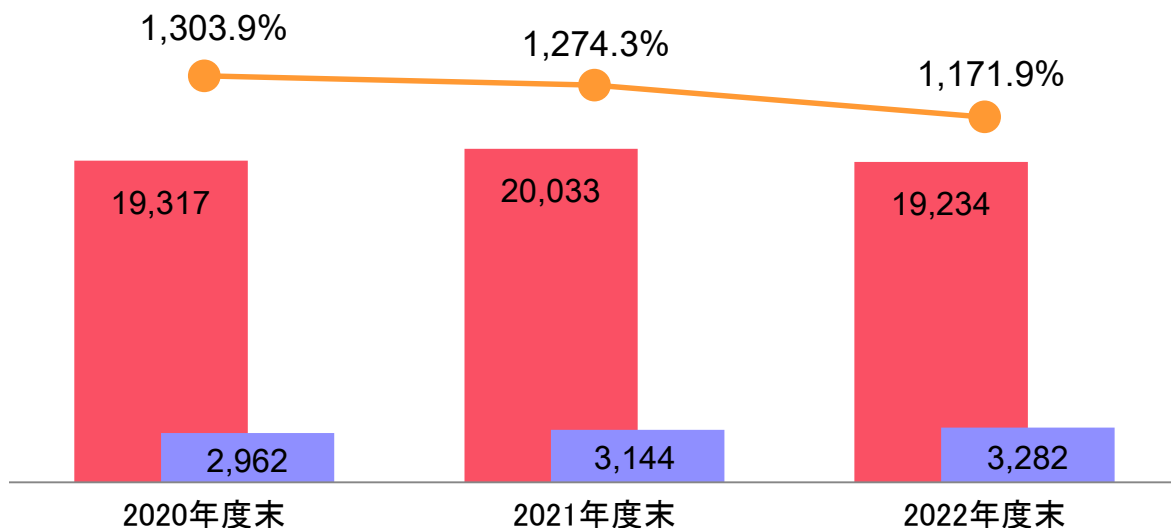


- ◆ 実質純資産額は、有価証券の含み益の減少を主な要因として、前年度末比5.8%減少の1兆7,770億円

健全性の状況

連結ソルベンシー・マージン比率

(億円) ■ ソルベンシー・マージン総額 ■ リスクの合計額 ● ソルベンシー・マージン比率



- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末比102.4ポイント低下の1,171.9%
- ◆ 内外の金利上昇等によるその他有価証券評価差額金の減少に加え、ヘッジ残高の減少によるリスクの増加が主な要因

【ご参考】経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)(富国生命単体)

	2020年度末	2021年度末	2022年度末 (速報値)
ESR	222.6%	228.9%	233.8%

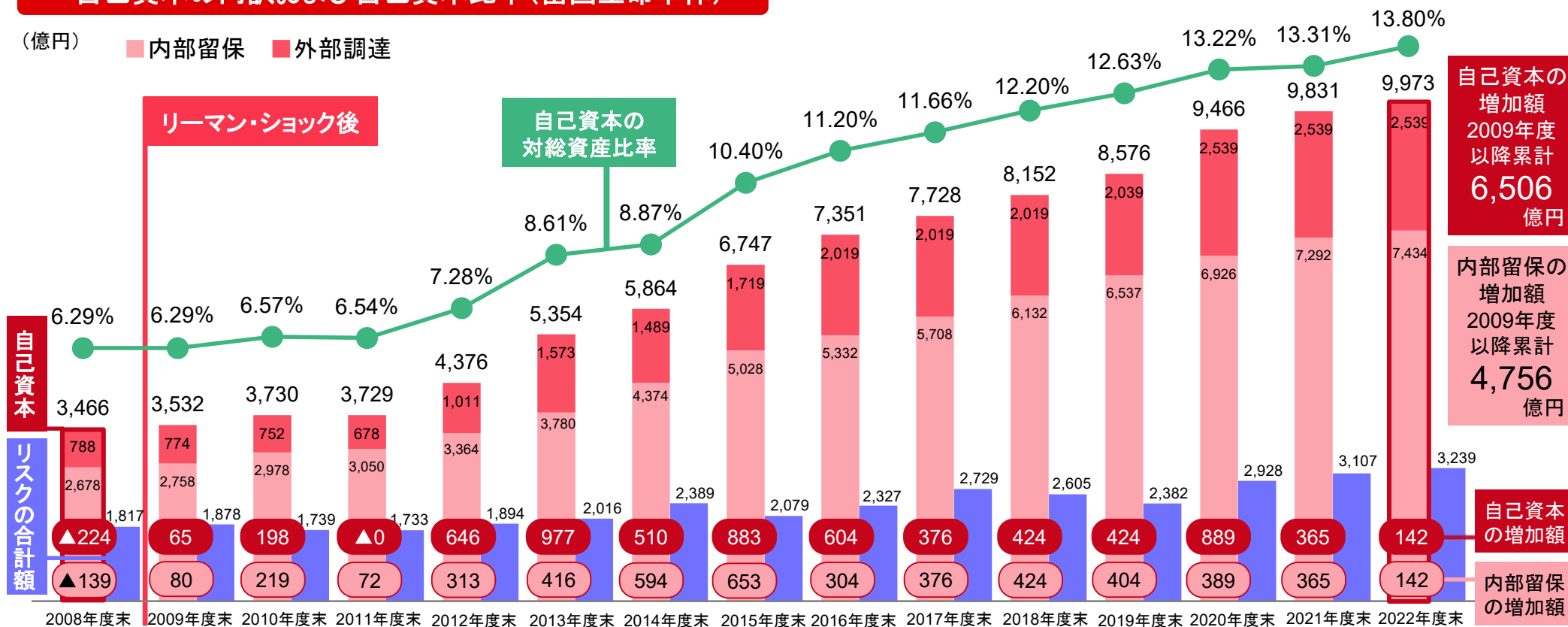
- ◆ 経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)は、前年度末比4.9ポイント上昇の233.8%

(注) ESRとは、経済価値ベースの自己資本のリスク(信頼水準99.5%、税効果反映後)に対する比率である。当社では、同指標の経営への活用において先行している欧州の手法に準拠したものを、統合的リスク管理(ERM)に用いている

オンバランスの自己資本強化と統合的リスク管理の推進

- ◆ いかなることがあってもゆるがない強固な財務基盤を構築すべく、経常利益による内部留保の積上げを第一義とし、適時、外部調達を行うことで自己資本を強化
- ◆ 2022年度末の自己資本は、内部留保により前年度末比142億円増加
- ◆ 統合的リスク管理(ERM)を着実に進め、保険金等の確実な支払いと配当還元の充実を通じ、ご契約者に安心・満足を提供

自己資本の内訳および自己資本比率(富国生命単体)



償却・償還済

2022年度決算の社員配当金案

相互会社である当社は、今後とも強固な財務基盤を維持しながら、配当還元の充実を通じてお客さまの
実質的な保険料負担の軽減をさらに進める

■ 個人保険分野

◆ 学資保険の利差配当を増配（増配額は0.3億円、増配件数は12万件）：11年連続増配

学資保険について、2023年度に改定した商品は予定利率を引き上げたことから、2017年度から2022年度に販売した商品に対して公平性確保の観点から予定利率の引き上げ幅相当の利差配当を開始。これにより個人保険分野の増配は11年連続

◆ 加入1年後からの配当を開始（対象金額は2.9億円、対象件数は26万件）

2022年度に発売した「未来のとびら」と「ワイド・プロテクト」は5年ごと配当タイプから毎年配当タイプに変更しており、従来商品は加入5年後から5年ごとの配当であったが、1年後からの毎年配当を開始

■ 企業保険分野：団体年金は前年度の業界最高水準の配当率を据え置き

団体年金について、同保険の資産運用損益と有価証券含み益に基づき配当率を据え置き

■ 2022年度加入（経過1年）、男性、月払、10年更新型、毎年配当契約
過去1年間に入院一時給付金の支払いがない契約の例示

✓ 未来のとびら

死亡保険金 2,000万円、介護保険金 300万円、就業不能給付金月額 10万円

✓ ワイド・プロテクト 入院一時給付金 20万円、長期入院給付金日額 6,000円

加入年齢	月払保険料	2023年度の 受取配当金	保険料に対する 配当金の割合※1
40歳	12,081円	1,512円	1.0%
医療保険	3,308円	742円	1.9%

(※1) 1年間の保険料の払込総額に対する配当金の割合

■ 2018年度加入（経過5年）、契約者：男性、月払、17歳払込満了、22歳満期、5年ごと配当契約

✓ みらいのつばさ（学資保険・S型）満期保険金 100万円

加入年齢 （契約者）	月払保険料	2023年度の 受取配当金	保険料に対する 配当金の割合※2
0歳（30歳）	10,170円	130円	0.02%

(※2) 5年間の保険料の払込総額に対する配当金の割合

■ 2013年度加入（経過10年）、男性、月払、10年更新型、5年ごと配当契約
満期まで入院給付金の支払いがない契約の例示

✓ 未来のとびら

死亡保険金 2,000万円、介護保険金 300万円、就業不能年金 140万円

✓ 医療大臣プレミア 入院日額 6,000円

加入年齢	月払保険料	2023年度の 受取配当金※3	保険料に対する 配当金の割合※4
40歳	12,494円	47,419円	8.6%
医療保険	2,562円	19,519円	8.5%

(※3) 満期契約に対する長期継続特別配当(15,292円)を含む

(※4) 保険期間(10年)を通じた保険料の払込総額に対する配当金総額の割合

【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)

	2020年度		2021年度		2022年度	
		増減率/pt		増減率/pt		増減率/pt
新契約高 ^(※1)	1兆6,105億円	▲ 3.5%	1兆7,805億円	10.6%	1兆6,673億円	▲ 6.4%
富国生命	1兆4,998億円	▲ 3.7%	1兆6,224億円	8.2%	1兆4,097億円	▲ 13.1%
フコクしんらい生命	1,106億円	▲ 0.4%	1,580億円	42.8%	2,575億円	63.0%
保有契約高 ^(※1)	27兆17億円	▲ 1.0%	26兆8,166億円	▲ 0.7%	26兆5,630億円	▲ 0.9%
富国生命	24兆7,643億円	▲ 0.5%	24兆6,501億円	▲ 0.5%	24兆3,456億円	▲ 1.2%
フコクしんらい生命	2兆2,374億円	▲ 6.8%	2兆1,664億円	▲ 3.2%	2兆2,173億円	2.3%
新契約年換算保険料 ^(※1)	181億円	▲ 12.3%	229億円	26.7%	295億円	28.6%
富国生命	120億円	▲ 18.9%	135億円	12.2%	141億円	4.9%
フコクしんらい生命	61億円	4.3%	94億円	55.2%	154億円	62.3%
保有契約年換算保険料 ^(※1)	5,488億円	▲ 0.1%	5,488億円	▲ 0.0%	5,498億円	0.2%
富国生命	3,785億円	▲ 1.7%	3,731億円	▲ 1.4%	3,695億円	▲ 1.0%
フコクしんらい生命	1,703億円	3.5%	1,756億円	3.1%	1,802億円	2.6%
保険料等収入	5,847億円	▲ 7.2%	6,320億円	8.1%	7,606億円	20.3%
富国生命	4,850億円	▲ 9.1%	4,864億円	0.3%	5,260億円	8.1%
フコクしんらい生命	997億円	3.5%	1,455億円	45.9%	2,345億円	61.1%
基礎利益 ^(※2)	669億円	22.5%	748億円	11.8%	488億円	▲ 34.8%
富国生命	684億円	23.3%	763億円	11.6%	472億円	▲ 38.1%
保険関係損益	472億円	▲ 0.6%	374億円	▲ 20.9%	54億円	▲ 85.5%
利差	211億円	2.67倍	389億円	84.3%	418億円	7.4%
フコクしんらい生命	▲ 14億円	—	▲ 14億円	—	15億円	—
連結ソルベンシー・マージン比率	1,303.9%	▲ 27.8pt	1,274.3%	▲ 29.6pt	1,171.9%	▲ 102.4pt
富国生命	1,261.6%	▲ 29.2pt	1,234.2%	▲ 27.4pt	1,133.8%	▲ 100.4pt
フコクしんらい生命	1,084.9%	+ 116.8pt	1,117.1%	+ 32.2pt	1,068.9%	▲ 48.2pt

※1 個人保険と個人年金保険の合計

※2 2020年度および2021年度は、2022年度と同一の基準で調整